

Link つながる Live 生きる Learn 学ぶ Labour 労働 Liberty 自由



エルコンパス

宝塚市立男女共同参画センター・エル

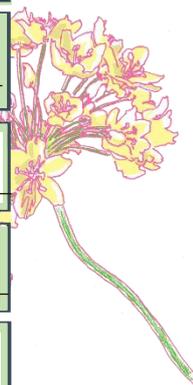
2022年3月 Vol.47

宝塚市立男女共同参画センター・エルは、すべての人が個人として、性ととられず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができる「男女共同参画社会」の実現を目指すための施策推進の拠点施設です。センターの愛称“エル”は上記の5つのLの頭文字をとったもので、市民からの公募で決定しました。

特集

寄稿：性暴力について～支援の現場で思うこと～

宝塚市男女共同参画プラン推進フォーラム開催報告	P.1
寄稿：性暴力について～支援の現場で思うこと～	P.2～P.3
講座案内：4月～7月	P.4～P.6
情報図書	P.7
施設利用案内	P.8



令和3年度宝塚市男女共同参画プラン推進フォーラム（12/12（日））

田嶋陽子さん講演会「私を生きるために」開催報告



田嶋さんは英文学・女性学の学者として長年教壇に立ち、フェミニズムの論客としてもテレビで活躍。80歳になられた今は、シャンソン歌手や書アート作家としても活動されています。若いころから自立し、“私”を楽しんでこられたかのように見えますが、そうではなかった。田嶋さんのお母様は、脊椎カリエスという病気で寝たきりになり、娘を自立させたいという思いから、田嶋さんを非常に厳しくつけたといいます。ベッドから竹の物差しで叩きながら「勉強しろ」と言ったかと思えば、「勉強ができて、女らしくなければ嫁のもらい手がなくなる」とまた叩く…。常に青信号と赤信号を両方出されていたようなもので、それが田嶋さんを苦しめた。でもその矛盾が田嶋さんのフェミニズムの原点になり、女性学の知識を深め、本を書く事で自己分析を重ね、46歳でようやく自分の人生を生きる決心が固まったといいます。「女の人が一人の人間として“私”を生きるためには、“男らしさ”の良い要素を取り入れる必要がある。例えば、経済力や決断力、いろんなことを実現していく実行力。そういう力は性別に関わらず、元来みんなが持っている。だから、男も女も、自分が今抱えている辛さや苦しみをきちんと表現しながら、おかしい事はおかしいと言う。弱さと強さを共存させて“人間らしく”生きる事が必要です」そう仰る田嶋さんに、「パワーをもらった」「話をきいて勇気が出ました」「自分のこれからの生き方について考える機会になった」と、参加者の方からも感想を沢山頂きました。

特集

寄稿：性暴力について～支援の現場で思うこと～

被害者の心身に多大な苦痛を与え、人格や尊厳を著しく侵害する性暴力。内閣府の調査（令和2年度）によると、これまでに無理矢理性交された経験を持つ女性は14人に1人と、決して稀な話ではありません。しかし、好奇の目や無神経な言葉にさらされたりして、さらに傷つくことを恐れ、被害を訴え出ない人も多いのが現状です。

一人一人が安心して生きられる社会にしていくために、何が必要なのか。今回の特集は、性暴力の支援の現場から、公益社団法人ひょうご被害者支援センターの遠藤えりなさんに、ご寄稿頂きました。

公益社団法人ひょうご被害者支援センター

事務局長 遠藤えりなさん

性暴力とは自身が望まない性的な行為であり、レイプだけでなく、様々な行為があります。体を触られる、着替えやトイレをのぞかれる、盗撮される、性的な被写体として撮影される、画像をSNS等で拡散される、セクシュアルハラスメント、ジェンダーハラスメントもその範囲に入ってきます。

性暴力の被害は年齢や性別に関係なく、あらゆる人に起こっています。自分が被害者ではないとしても、身近な人が被害に遭っているかもしれない、決して他人事では済まされな、すべての人が考えないといけない問題です。

国は、性犯罪・性暴力は、人の尊厳を著しく踏みにじり、心身に長期にわたり重大な悪影響を及ぼすものであり、その根絶は待たなしの課題であるとして、「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」（令和2年6月11日付）を決定しました。

この方針において、令和2年度から4年度までの3年間を、性犯罪・性暴力対策の「集中強化期間」として、刑事法の在り方の検討、被害者支援の充実、加害者対策、教育・啓発強化の取組が始まっています。

支援の現場から

平成29年4月に「ひょうご性被害ケアセンターよりそい」が開設され、私たちはたくさんの性犯罪、性暴力の被害者やご家族の声を聴いてきました。被害直後の方から、被害後10年、20年以上たっている方まで、その件数は令和2年度までの4年間で1500件余りになります。

公益社団法人 ひょうご被害者支援センターとは

犯罪及び犯罪に類する行為により被害をうけた方やその家族及び遺族（以下「被害者等」という）に対する各種の支援に関する事業を行い、社会全体が被害者等を総合的にサポートできる環境づくりに寄与することを目的に平成14年に設立された民間支援団体。

電話相談：078-367-7833

火水金土・10時～16時

（祝日・8/12～16、12/28～1/4は除く）



眠れない、悪夢を見る、被害の記憶が突然出てくる、加害者に似た人にびくっとする、食欲がない、妊娠しているのでは、感染症にかかっているのでは、おなかが痛い、頭痛い、加害者が自宅を知っている、職場を知っている、また被害に遭うのでは、写真や動画を撮られているのでは、ネットに流出しているのでは、記憶がなく何をされたのかわからない…自分の身体や心、安全についての不安、心配、苦しみは尽きません。

また、「その場所に行ったから」「一緒に食事をしたから」「抵抗できなかった、逃げられなかった」など被害の状況から「自分が悪かった、落ち度があった」とほとんどの方が自分を責め続けて苦しんでいます。



被害者の周りの方からも相談は入ります。性暴力は被害者を知った保護者やきょうだいにも大きな影響を及ぼします。被害者のケア、家族を守れなかったという自責感、加害者への怒り、関係機関への対応、周囲の人たちからの二次被害などが重なり、保護者が体調を崩して、家族の生活が維持できなくなってしまうこともあります。

被害者自身が学校や仕事に行けなくなったり、行けても体調が悪くなったりすることがあり、学校や職場での環境調整も必要になります。

加害者が逮捕されていない場合、再被害の恐怖もあります。知っている人が加害者の場合、被害者の住所や名前が加害者に知られていることもあり、安心した生活が送れない状況になります。

被害は家庭の中でも起こっています。親やきょうだいからの被害の場合、長期間継続的に被害に遭っていることもあります。未成年者、特に10代前半の場合は自分の力で家から出てどこかに一人で住むという選択はないので、逃げ場がありません。ほかのきょうだい被害に遭うくらいなら自分が我慢すればいい、家族が生活していくために自分が我慢すればいい、という思いを話された被害者の方もありました。

このように、性暴力被害は、「魂の殺人」と言われ、被害者やその周りの人の人生に大きな影響を及ぼす、重大な被害です。あらゆるところで起こっていますが、「性」というとてもプライベートな領域のことなので、表に出にくく、気づかれにくい、まさかそんなことがあるはずないという状況で発生しているのです。



被害者を守るには

性暴力の被害者の方のご相談を受けて、まず私たちが確認することは、安全です。身体の状況（けがや妊娠、感染症など）、今、安全なところにいるのか、今後も安心していられる場所があるのかということです。何よりもその方が生きるための安全を確保することが優先されます。それから、被害者の方のお話を丁寧にお聴きします。「そんなことありえない、信じられない」などと言って話を批判したり、否定したりしない。「不注意だった」「隙があったのでは」「どうして逃げなかったの」など責めるようなことを言わないなど、話を聴く側が被害者の方に二次被害を与えないように気をつけます。そして「あなたは悪くない」「悪いのは加害者である」ことや「あなたは一人ではない」ということもお伝えします。

これらのことは、家族や友人が被害事実を知った時にも必要な対応であり、緊急の場合は警察や救急、どうしたらいいかわからない時は支援機関に相談するなど、関係機関の情報を持っておくことも大切です。その支援機関の一つが「ひょうご性被害ケアセンターよりそい」です。

誰もが大切にされるために

性暴力の被害は年齢や性別に関係なく起こっています。一方、加害者の年齢や性別も区別はありません。小学校で子どもが子どもに加害行為をするという状況が発生しています。被害者のケアの体制を整備することだけでなく、子どもたちに「性」についての正しい知識や、性暴力について学び、自分の心と身体も人の心と身体も大切にすること、絶対に加害者にならないという意識を持ってもらうような教育の必要性も感じています。

一人一人が大切な存在です。安心して生きていけるようにサポートしてくれる所があり、そこには声を聴いてくれる人がいます。問題を一人で抱えないで、相談してほしいと願っています。

ひょうご性被害ケアセンター「よりそい」とは

性暴力の被害者に被害直後から医療、心理相談、法律相談等を可能な限り一か所で提供し、心身の負担を軽減し、健康の回復を図るとともに、被害の潜在化を防ぐことを目的としている。

兵庫県の委託を受けてひょうご被害者支援センターが運営しているワンストップ支援センター。

内閣府作成「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター一覧」に登録している。

ひょうご性被害ケアセンター「よりそい」の支援

☆電話相談 078-367-7874

月～金 9時～17時(祝日、12/29～1/3除く)

☆開設時間以外は夜間休日対応コールセンター(国設置)に自動転送される

☆ホームページの相談受付フォームもあり

☆面接相談 (予約 随時)

弁護士による法律相談

臨床心理士による心理相談

相談員による面接相談

電話件数
2017年:266件
2018年:426件
2019年:340件
2020年:534件

講座案内

4月~7月

講座はすべて要予約。
参加費・保育は無料です。
申込電話番号：0797-86-4006

親子育ちセミナー

4月4日(月)から受付

5月21日(土) 10:00~12:00

新1・2年生のための CAPワークショップ



CAPとは子どもがいじめや虐待などの暴力から自分で自分の身を守るためのプログラムです。大切な3つの権利(安心・自信・自由)について学び、その権利が奪われそうになったとき、何ができるかを子どもと一緒に考えていきます。ロールプレイの劇を交えながら、明るく楽しいプログラムです。

- 対象：こどもワークショップ：小学校新1・2年生 20人(子どもが参加される場合は、必ず保護者の参加が必要)
おとなワークショップ：大人 30人(保護者・祖父母・地域で子どもの見守りをされている方等)
☆大人だけの参加も大歓迎! ☆ 子どもワークで実施するロールプレイや子どもへの対応などお話しします。
- 保育：10人(1歳~就学前まで) 要予約・先着順
※NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西スタッフが担当します。



5月20日~6月17日(毎週金曜日)全5回 10:00~12:00

スター・ペアレンティング講座 ~たたくず 甘やかさず 育てする方法~

「わたしの子育て、これでいいのかな?」「毎日こんなに怒ってばかりでいいの?」など、子育てについて、悩みながら、迷いながら過ごしていませんか。この講座では、子どもの発達段階や気質に合わせた子育て方法を学びます。男の子だからこうすべき…、女の子だからこうすべき…といったジェンダーにとらわれない子育て方法も考えましょう。小さなお子さまだけでなく思春期のお子さまがいる方、孫育て中の祖父母の方など、子どもとの関わり方を学びたい方ならどなたでも参加できます。

- 講師：竹下 郁代さん・奥平 恭子さん
(NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西 スタッフ)
- 対象：子育て中の方、子どもに関わるおとな 30人
- 保育：10人(1歳~就学前まで)
要予約・先着順 ※5/12(木) 17時締切

5月20日	概論スター・ペアレンティングとは? 問題をさける
5月27日	良い行動を見つけ出す
6月3日	感情を認める
6月10日	限度を設ける
6月17日	新しいスキルを教える・まとめ

感染予防対策実施中



宝塚市立男女共同参画センターでは、新型コロナウイルス感染拡大予防
ガイドラインに沿って講座等を開催致します。

中止など、ご利用にあたっては随時HP等をご確認の上ご協力をお願いいたします。

- ・当日、体調の悪い方、体温が37.5℃以上ある方はご参加頂けません。予めご自宅で体温をチェックしてからご来館ください。
- ・参加される方はマスクの着用をお願いいたします。(小さなお子様は除く)
- ・利用時は、適宜手洗い・手指のアルコール消毒にご協力ください。
- ・講座中に換気の時間を設けます。

講座案内

4月~7月

講座はすべて要予約。
参加費・保育は無料です。
申込電話番号：0797-86-4006

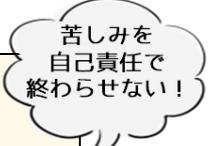
男女共同参画基礎講座

5月6日（金）から受付

6月18日・25日 7月9日・16日（土曜日） 全4回 10:00~12:00

男女共同参画スタディーズ2022 働くことと 生きること
~労働の視点から考える 日本のジェンダー平等への道~

ステイホームで負担が増えた家事や育児の担い手や、リモートワークがしにくく厳しい環境で働かざるを得ないエッセンシャルワーカー、立場が弱く、働いていても貧困に陥りやすい非正規雇用者には女性が多く、このコロナ禍では“働くこと”に関するジェンダーの不平等が改めて確認されました。これは、女性だけの問題ではなく、社会全体の問題でもあります。今ある社会の認識や仕組みを、身近な所からどう変えるべきなのか？一緒に考えてみませんか。



6月18日	働く女性を支える社会保障制度~シングルマザーに焦点をあてて~ 田宮 遊子 さん 神戸学院大学 経済学部 教授
6月25日	働く人が声をあげるには~主婦パートの賃金差別訴訟「丸子警報器事件」を通して~ 渋谷 龍一 さん 労働ジャーナリスト
7月9日	生命を支える仕事はなぜ安い? 家事労働からみるケア労働 伊田 久美子 さん 大阪府立大学名誉教授
7月16日	ワークショップ: これからの働き方と、今あなたに出来る事 田上 時子 さん NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西 理事長

gender



Live

Work

- 対象：テーマに関心のある方 35人 ※1回でも参加可
- 保育：10人（1歳~就学前まで） 要予約・先着順

女性セミナー

6月3日（金）から受付

7月1日 ~ 7月15日（毎週金曜日） 全3回 10:00~12:00

あたまたに「離婚」が浮かんだとき ~わたしの生き方を考える~

このまま、婚姻生活を続けられるかどうか悩んでいる人へ。
私はこれからの人生どうしたいのか…自身の心の中をみつめなおしてみませんか。実際に必要となるお金の話や子どもの親権についてなど具体的な事柄を知ることが、“わたしが主役の人生”を歩む力となります。

7月1日	離婚にまつわる法律について 和田谷 幸子さん 西宮 Women's 法律事務所 弁護士
7月8日	シングルマザーの働き方・生き方 中野 冬美さん ひとり親家庭相談員・キャリアコンサルタント
7月15日	「離婚」迷うのはなぜ? 田上 時子 さん NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西 理事長



- 対象：テーマに関心のある女性 20人 ※全回参加できる方優先 <先着順>
- 保育：10人（1歳~就学前まで） 要予約・先着順

講座案内

4月~7月

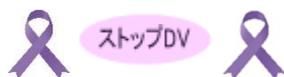
講座はすべて要予約。
参加費・保育は無料です。
申込電話番号：0797-86-4006

パープルリボンカフェ

予約不要・当日センターにお越しください

4月26日(火)・7月26日(火) いずれも10:00~12:00

パープルリボンカフェ



“女性に対する暴力をなくす運動”のシンボル、パープルリボン。皆でおしゃべりしながら、パープルリボンづくりをしませんか？リボンにお好みの飾りをつけるだけ♪お茶を飲みながら、[わいわい&チクチク]しましょう！フレンドシップキルトもあります。

- 持ち物：裁縫道具（お持ちであれば糸・針など。センターでも用意しています。手ぶらでどうぞ♪）
- ☆一時保育はありませんが、お子さん連れも参加OKです☆

ほっとサロン

4月21日(木) 13:30~15:30

4月4日(月)から受付

わたしに戻る 読書の時間



家事に育児にあわただしい毎日。お子さんを預けて、ゆったりと、『ママ』から『わたし』に戻る時間を過ごしてみませんか？情報・図書コーナーにある図書や雑誌を読んで、リフレッシュ！おススメの最新刊も続々入荷。コミックも所蔵しています。

- 対象：子育て中の女性 20人
- 保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

6月30日(木) 10:00~11:30

6月3日(金)から受付

親子で楽しむキッズルーム



お子さんを遊ばせながら、気になることを話してみませんか。「こんな時どうしてる？」「それ試してみよう！！」子育てが楽しくなるヒントが、きっと見つかります。親子遊びや絵本の読み聞かせ、簡単なミニ工作など、楽しいこといろいろ。親子で楽しむキッズルームへぜひどうぞ♪

簡単ミニ工作：七夕かざり



- 対象：乳幼児とその保護者 10組
- 進行：NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西 スタッフ

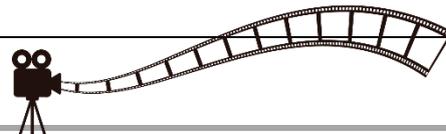
7月14日(木) 10:00~12:00

6月3日(金)から受付

わたしに戻る 映画の時間「マイ・ブックショップ」2017年/イギリス他/112分

お子さんを預けて、エルで過ごすわたしだけの‘映画の時間’をぜひどうぞ♪ 1959年、イギリス東部の海辺の小さな町。書店が一軒もなかったこの町に、周囲の反対にあいながらも読書の楽しみを広めたいという願いを胸に、今は亡き夫との夢だった書店を開店した一人の女性の物語。

- 対象：子育て中の女性 20人
- 保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順



はじめてでも安心
一時保育
無料

当センターでは、保育グループの協力により、全ての主催講座に一時保育を開設しています。子どものよりよい仲間づくりの場、地域に開かれた集団生活への導入につながるような保育をめざしています。1歳～就学前までお預かりします。初めての方も、安心してご利用下さい。

情報図書

情報・図書コーナーでは、女性問題の解決や男女共同参画社会をめざす
さまざまな活動をサポートする情報を収集し発信しています。



図書担当の
おすすめ本



2019年3月～2020年3月の1年間、47すべての都道府県で性暴力に抗議するために声をあげた「フラワーデモ」の記録。性暴力は遠いどこかで起きていることではなく、年代を問わずずっと以前から身近なところで起きていることがわかる。これ以上繰り返されることがないためにも、各地で起きた一人ひとりの声と寄稿文から実態を知り、被害者の傷つきに寄り添ってほしい。

「フラワーデモを記録する」
著：フラワーデモ編
2020/4 エトセトラブックス

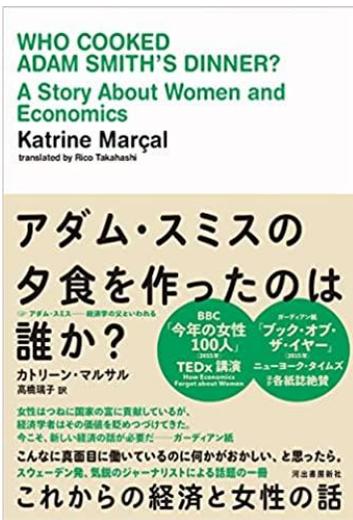
図書貸出は
お一人5冊・2週間



宝塚市在住以外の方も
借りられます。

本の情報や資料探しのお手伝いをします
お気軽にお声かけください♪

情報は力です。
自分の必要な情報を
見つけて、
自分自身のチカラに
しませんか？



「経済学の父」と呼ばれるアダム・スミスは、生涯独身で、母や従姉妹に身のまわりの世話をしてもらっていた。女性たちが担った料理や掃除など、家庭内のケア労働なしには、研究も経済も成り立たないはずだが、彼と彼の学的継承者はそれらに無価値とし、男たちの経済活動だけが価値あることだとしてきた。

女性不在で欠陥だらけの経済神話を終わらせ、新たな社会を志向する、スウェーデン発、21世紀の経済本。ユーモアを交えながら、経済とジェンダーの交わりを、痛快に考察する。

「アダム・スミスの夕食を作ったのは誰か？」
著：カトリーン・マルサル
翻訳：高橋璃子
2021/11 河出書房新社



ジェンダーの押し付け・マウンティング・セクハラ・パワハラ…。ほめ言葉やアドバイスのつもりでも、受け取る側にとってはどこか「モヤる言葉」が、日常生活にこんなにもあふれていたのかと気づかされた。「相手に悪気はない」「私の気にしすぎ？」と、今まで片づけていた事も、モヤる理由とその対応策を筆者が軽快に言葉にしてくれており、「モヤる自分はアップデートしている証拠である」と、これまで傷ついてきた多くの人を救ってくれる本だと思う。

「モヤる言葉、ヤバイ人」
著：アルテイシア
2021/7 大和書房



目標5 (ジェンダー)
ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーの平等を達成し
すべての女性と女児の
エンパワーメントを図る

宝塚市立男女共同参画センターは
SDGs を支援しています

施設利用案内



詳しくはセンター、またはセンターのHPで
<https://www.takarazuka-ell.jp>
 電話番号：0797-86-4006

学習交流室等のご利用

センターでは、学習交流室（5室）とプレイルームを有料でお貸ししています。グループ活動・ミーティング講演会等にご利用いただけます。

活動内容・利用者の居住地により受付開始日や料金が異なりますので、詳しくは受付までお問い合わせください。

※営利を目的とした活動（「カルチャー教室」や「おけいこごと」の指導者による利用を含む）はご利用いただけません。



女性のための相談室

予約番号：0797-86-4006

電話相談	月・火・木・金・第2、3、4土曜日 10時～12時／13時～16時 直通電話（予約不要）：0797-86-3488
面接相談	第2・4水曜日 10時～、11時～、12時～ ※要予約・相談時間 50分
法律相談	第1土曜日（原則） 14時～、14時45分～、15時30分～、16時15分～ ※要予約・相談時間 45分（市民対象 原則1人1回限り）
起業相談	第1・3水曜日 10時～、11時～ ※要予約・相談時間 60分
チャレンジ相談	第1水曜日（原則） 11時～、12時～、13時～ ※要予約・相談時間 50分



※電話相談以外はすべて一時保育あり（要予約） 年末年始及び祝日の全相談業務はありません。

セクシュアルマイノリティ電話相談

専用電話番号：0797-71-2136

毎週水曜 15時～18時（祝日・年末年始を除く）（問い合わせ：宝塚市役所 人権男女共同参画課）

自分の性や性的指向に伴う相談をはじめ、さまざまな相談に応じます。本人、家族、友人、教員などなたでも相談できます。

宝塚市立男女共同参画センター・エル

指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

開館時間：月曜日～土曜日（9時～21時）

日曜日・祝日（9時～17時）

休館日：毎月第2日曜日・年末年始

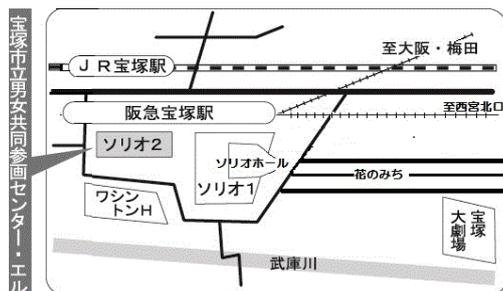
〒665-0845 宝塚市栄町2-1-2「ソリオ2」4階

TEL：0797-86-4006 FAX：0797-83-2424

Facebook



LineID：@763zrxid



ホームページ：https://www.takarazuka-ell.jp/

メール：elsenternpo-empower@takarazuka-ell.jp